

## 編集者のことば

都市研究センターの創立から16年、創刊号から毎年欠かさず3冊発行してきた本誌も50号を迎えることになった。本号は、その記念号として編集した。それでセンターの元所長や本誌の元編集委員長の先生方にも御寄稿を戴いた。

それらの先生方は、センターの前身である都市研究委員会に参加され都市研究を実践されるとともにセンター創立の大功労者である。さらに本誌の創刊から今日まで多大な御尽力を賜った。それゆえ、センターと本誌の歴史、現状と将来につき、様々な視点からの思いや御期待、また御批判・激励を賜った。また、都市研究の基本的なあり方についての御提言もあった。ここに先生方の御指導・御厚情に衷心より御礼申し上げますとともに御期待に背くことのないようセンターの研究、本誌の更なる前進に向けて努力することをお誓い申し上げます。

次いで、この記念号ではセンターの現在の専任研究員6人と専任研究員としての着任をお願いしている2人の合計8人の論文や研究活動史・現在進めている研究の紹介などを掲載した。これらは、筆者それぞれのこれまでの主要な研究テーマと内容概要およびその系統的整理、今後の課題と展望や最近の研究成果など様々な形態をとっているが、いずれも本記念号における研究面での自己紹介である。

ところで東京都は、都立大学のこれまでの都市に関する研究・教育の蓄積を基礎に、総合的で学際的な専門教育と研究を行い、高度な都市専門家の養成と研究者の育成をはかるため、本学に「大学院都市科学研究科」の設置を計画している。「大学院都市科学研究科」の修士課程は平成6年(1994年)の開講を目指し、現在、文部省へ設立認可申請中である(博士課程は、1996年の設置を計画)。この大学院にはどの学部・学科からも進学できるとともに、その教育・研究方法の特色は昼夜開講制にあり、社会人もまた在職のまま大学院で研究することが可能である。また、この大学院はセンターを主な基礎としているから、大学院に興味ある読者はその教育・研究の内容についての情報を本誌から得ることができる。特に記念号であるこの50号は、大学院の主要な教育・研究スタッフ(センターが着任をお願いしている2人を含む)の研究プロフィールの紹介も兼ねている。したがって、センターの専任研究員の研究、共同研究、それを基礎とする大学院の教育・研究の内容に関心を持つ多くの方々に読んで戴けるよう願っている。

なお、この号は枠外の特別号であり、今年度、本誌は4冊刊行される。

1993年11月

望 月 利 男